

水中用フラッシュガン(ニコノス専用) 1台

〔フラッシュ球〕

白黒用M級 200個

白黒用FP級 100個

カラー用M級 100個

〔その他〕

三脚 1本 レリーズ 1本

延長コード(5m) 2本

ニコノス用ガンコネクター 1個

電池(フラッシュガン用) 5個

ハケ、シリコンクロス 各1個

青海千里洞調査と気象

横 田 悟

ここ青海千里洞のある新潟地方は、裏日本式の北陸気候区に属し、夏は比較的高温で、冬は、わが国でも有数の深雪地帯である。年平均気温は13度、夏季平均気温は24.5度(7月)、冬季平均気温は零下1度であり、年間降水量は2,000mm前後である。青海地方一帯は、この冬、例年以上に寒く、我々のテント場の前の大木の地上から3~4mの所にテープが巻かれてあり、現地の人の話では、そこまで雪が積ったということである。又、そのため洞内の雪渓は、昨年よりはるかに多く残っていた。

さて今回の気象であるが、過去4回の青海千里洞調査においては、あまり重要視されていなかったのであるが、それと言うのも過去においては、雨による影響が幸運にも少なかったためである。しかし昨年、新潟地方を襲った集中豪雨によって、最深部アタックを断念させられた結果、気象というものの重要性を痛感し、今回、気象というパートが置かれたのである。そこで、今回の合宿において、日程の面で、いろいろ気を配ったのである。それは、この青海千里洞は、いうまでもなく、日本で一番深く、いわばそれくらい大きな洞窟なのであるが、また非常にデリケートな一面も備えているからである。つまり地上に降った雨は、多くの吸い込みより洞内に集中するので、降水量には非常に敏感であるということである。そこで今回は、雨による影響を最少限

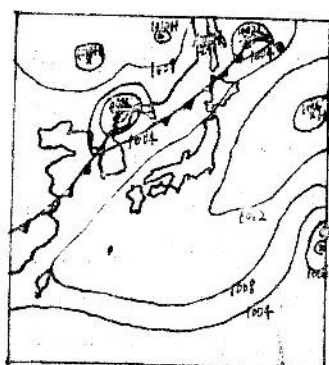
に食い止めるため、現地の役場から過去の気象のデータ（図1）を取りよせ、それに基づいて、最も雨量の少ない8月3日～8月20日を選び、最深部アタックを7日～10日にしたのである。

そして4日・5日の第1次・第2次洞上げの日は、雨も降らずに割り合いに順調にいき、明日からの洞内アタック、調査に備え、四方を山に囲まれている中で、出来るだけラジオの感度をよくするため、テント前の地上から15メートルほどの木の枝に、コードをつるし、アンテナ代りにして一言一句聞きのがすまいと意気揚々と待ちかまえたのであった。

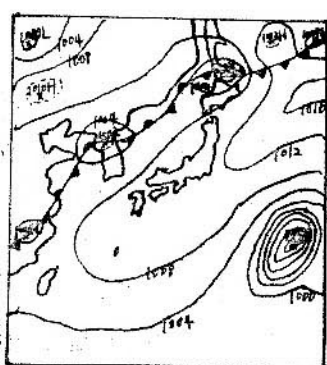
さて7日からは、いよいよアタック隊の入洞である。そしてこの日は、予報も天気もまずまずであった。アタック2日目の8日の天気図（7日18時発表）は図Aであった。そこで満州にある高気圧、低気圧の強さ、速度などから、雲が多く雨も降り出すのではないかと思ったのであるが、朝からカラッと晴れあがった。そこでこれはおかしいと思って、洞口での確保の後、再びテントに戻って、その朝9時の予報をつけてみたが、あまり変化はなかった。こうなると同僚にはひやかされるし、自分でも何がなんだか困り果ててしまった。アタック3日目の9日の天気図（8日18時発表）は図Bのように昨日と殆んど変化はなかった。ただ7日から天気図上に姿を現わした台風7号が徐々に勢力を増しながら、日本に方向をとる不気味な存在となってきた。今日は私も洞内に入っていくことになっているので、出来るだけ詳しく報告しようと張り切っていた。

日	8/1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
昭和44年	降水量	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4.5	2	10		0	0	0	0	0	0
(9:00)	天候	①	①	①	①	①	①	①	①	①	②	②	②	②	①	①	①	①	②	①
昭和44年	降水量	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5.1	0	1	0	9.5	0	5.5	0
(15:00)	天候	①	①	②	②	①	①	①	①	②	①	②	②	②	②	①	②	②	②	②
昭和42年	降水量	0	0	0	3.0	0	0	0	0	3.5	2.9	2.5	4	11.5	1	1	2	0	0	0
(15:00)	天候	①	①	①	②	②	①	①	①	①	②	②	②	②	②	①	①	①	②	②

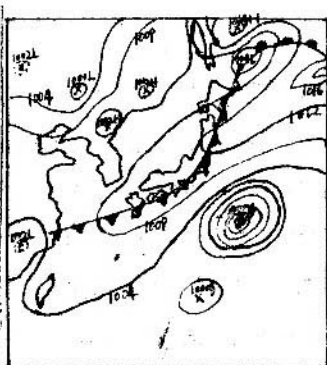
青海町気象統計 9:00 現在 雨量は1日の雨量合計 (図1)



(図A)



(図B)



(図C)

そして今日も私が入洞する前はよく晴れていたのである。そこで昨日の天気図と実際の天気とを
考え合わせて、第Ⅲホールの人間とのトランシーバー連絡では、「現在は、よく晴れていて曇り
にはなるかも知れないが雨の心配はなかり」と答えておいた。又台風のことについては、まだ
直接の影響はなさそうだし、アタック隊のものに、余計な心配をかけるのもよくないと思い、そ
のことに触れないでおいた。しかし、しばらくして私のあとに入って来たものの話によると、
地上では、今、雨が降っているという。私と彼が洞内に入って来る時間差は2時間と違わなかつ
たであろう。昔からよく“女心と秋の空”などと言われたものだが、それ以上にこの時ほど山の
空ほど変り易いものはないと思い、又、恨んだことはなかった。しかしここで私は、大きなミス
をしていたということに気がついた。つまり今までの私の予報から、ここは特別な地域であると
いう先入感を抱き、あまり天気図自体を重視しないようになってしまっていたということを認め
ざるを得ないのである。具体的に言えば、9日の天気図を見て私は前日の臆測から、又雨は降ら
ないであろうと考えたのであって、天気図を見れば、雨が降るのは特別な地域など関係なしに当
然の結果であったのである。しかし私の天気図に対する知識不足を指摘されれば一言もないが、
この3日間ほど私は天気図に終始からかわれていたような気がしてならなかったのである。つま
り日本海から中国南部に延びている前線の速度から考えて、遅すぎには、雨が降るだろうと思え
ば停滞するし、9日の天気図のように、まだ停滞して雨は降らないだろうと思えば図Cの天気図
(9日18時発表)のように移動して日本を通過して雨が降るといった具合である。とにかく
私の予報の確実性が薄らぐにつれて、心の中では、私の予報が当ろうと当らまいと、どうしてもよ
いように感じられてきた。ただこのアタックの4日間、雨さえ降ってくれなければよいと、それ
ばかり祈っていたのである。アタック4日目の10日は、アタック隊の出洞の日である。心配し
ていた台風も日本へは接近しているが向きをだんだん西の方へとるようである。又朝は前線の影
響で雨も少し降ったが、昼からは、いい天気になってきて、出洞したアタック隊の1人が4日ぶ
りの夕日を見て「すごくまぶしい」と言った時、私は山の彼方に沈み行く太陽に向って「こら太
陽！おまえさんがもっと顔を出し続けていてくれたら俺は、この4日間、それほど心配もせず、
もっと愉快に過ごせただろうぜ」と言ってやりたい気持ちであった。そして4日ぶりに全員がベ
ースキャンプに戻って来た時、気象についてあまり役に立たなかった私ではあるが、一種の安堵
感を覚えたのである。

今回の合宿を振り返りながら、実際、私は今度の気象は、予報がどういう結果に終わっても続行
された時、気象の必要性を疑ったこともないではないが、それはおもいもよらぬ事が、起らなかつ
たためである。つまり昨年の集中豪雨や今度の台風といった合宿自体を大きく左右する極面に

立たされた時、その事態をある程度でも知ることにより、隊員に与える心理的な影響は大きいと思われたのである。そして15日全員無事に下山したのである。

5 青海千里洞調査に於ける 装備の種類とその重要性

榎 谷 朝 昭

(1) ワイヤ梯子

堅穴洞窟に於ける重要な装備の1つである、我々の梯子は、安全性は言うに及ばず費用の面も考慮して、合金性パイプ、ワイヤ、グリップ等を購入し独自に製作したものである。

我々の手で作り上げた梯子には、絶対の信頼がおけるのである。

梯子は洞口より第Ⅰホールへの65m、チムニーから第Ⅱホールへの5m、第Ⅱホールより第Ⅲホールまで75m、第Ⅳホールより第Ⅴホールの20m、第Ⅴホールより第Ⅵホールへの60m、全長225m。第5次調査では予備を含め280mの梯子を用意した。第3次で利用したクレモナ梯子は軽量ではあるが昇降に時間がかかり、又安全性に欠く為第4次からは使用しなかった。

ワイヤ梯子の長さは20m、15m、10m、5mの4種である。20m以上になると洞内に於いて持ち運びに不便であるばかりでなく、荷上げ時にキスリングにはならない。

梯子の製作

ワイヤは4mmを2本、プレートは長さ170mm、内径15mm、外径18mm、プレートの端より10mmの所に5mmの穴をあける。プレートの固定はグリップを使用する。

ジッヘル用ワイヤと梯子、梯子と梯子の接続部分は強く締めて抜けないようにする為グリップは3～4個使用し、向きを交互にして締める。

